

1 学校教育目標 本校の歴史と伝統を重んじ、連続と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましく開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子育てを育てる。	2 本年度の重点目標 ① 学力の向上 (教職員の資質向上を含む) ② 心の教育の推進 ③ 健康・安全教育の推進 ④ 学校運営協議会制度の推進 (学校支援・地域との交流)	白石町内共通実践目標 <達成率95%以上> ① 自ら進んで挨拶をする白石の子どもの育成 (家庭・地域・学校で) ② 家庭学習や手伝いに進んで取り組む白石の子どもの育成 ③ 自力登校できる白石の子どもの育成
--	---	---

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的改善策・向上策
学校運営	●学力の向上	考える授業の創造	「考えることを楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。 ・授業研究会を年8回以上行い、指導力の向上を目指す。	・考える楽しさを味わわせる授業作りを工夫する。	A	・「考えることを楽しい」と答える児童の割合が90%であった。 ・授業研究会を年8回行い、指導力の向上を目指した。	・今後もめざす児童像)を全職員で共通理解し、児童が自ら進んで学ぶ授業の工夫改善や学習環境の整備を行う。 ・学習状況調査を分析し、課題克服に向けて視写等の具体的な対応策を考え、学校全体で取り組んでいく。
教育活動	○図書館教育	図書館の授業活用	・図書館の図書を活用した授業を年1回以上全学級において行う。	・国語科で各単元の関連図書を活用した授業を行ったり、他教科においても積極的に図書を活用した授業を仕組んだりする。	A	・どの学級においても、図書館を活用した授業を積極的に取り入れた。	・図書と連携して、関連図書をそろえ、計画的に準備することが必要である。
教育活動	○読書	読書の奨励	・図書を年間100冊以上借りる児童の割合を90%以上にする。	・全校で時間を統一して朝の読書タイムに取り組む。 ・毎日クラス別の貸出冊数を放送したり、月ごとの貸出冊数を担任に知らせるなどして、担任と協力して読書の推進に取り組む。	B	・100冊以上借りることができた児童は、全体の88%であったが、冊数を増やすだけが目的の児童も見受けられた。 ・読書タイムでは、音楽を流して、静かな雰囲気の中で読書ができていた。 ・放送や担任の協力もあり、クラス内でも声をかけあって借りて来た。	・冊数の増加が目的で同じ図書ばかりを借りている児童に、他の図書にも目を向けさせる。 ・朝の読書タイムは、今後も継続して読書する環境を与えていきたい。 ・図書委員や担任と協力し、多くの児童の貸し出し冊数を伸ばしていく。
教育活動	○体育学習の充実	たのしい体育の実践	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合90%以上を目指す。 ・運動が楽しいと感じ、進んで運動に親しむ児童の割合90%以上を目指す。	・めあてやふりかえりを意識した学習を行う。 ・学年間のつながりを意識できるように、資料の共有を図る。	A	・体育の前は張り切っていると答える児童の割合が99%であった。体育の学習をとても楽しみにしており、活動にも意欲的に取り組むことができていた。 ・体つり運動において6年間を見通した学習計画を考える場を持つことができた。	・体育学習との連携を図った取り組みで体育学習が充実している。今後は、この取り組みの成果を職員間で共有し、学校の財産としていく必要がある。
② 心の教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの実態把握	「いじめをしている」「いじめを受けている」児童0を継続する。	・定期的に調査(職員・児童・保護者)を行い、児童の実態を掴む。 ・全職員で連携して全児童をみとめる。 ・児童理解連絡会を定期的に行き、問題事象の早期発見・早期対応を図る。	A	・児童アンケートを年2回、担任による面談を1回実施した。また、週1回の情報交換を行う場を設定し、早期に職員全体で問題を共有する体制を整えた。また、SCとの連携も図りながら問題の早期解決に向けた取り組みを行うことができた。	・情報共有できる体制を今後も継続して実施し、児童間での問題に早期対応できるようにしていきたい。また、未然防止の取り組みについても、今後検討していく必要がある。
教育活動	●いじめの問題への対応	学級集団の質の高揚	・Q-Uアンケートを活用し、「安心して学び合うことができる」と答える児童の割合を90%以上にする。	・授業や日常活動の中で、共に聴き合い学び合う場を意図的に設定する。 ・保護者と連絡を取り合い、共に児童を支えていく。 ・スクールカウンセラーなどの外部機関と連携しながら児童の困り感を軽減する。 ・Q-Uの活用及び研修会を実施する。	A	・学校や学級での生活が楽しいと回答した児童が93%であった。 ・困り感を持つ児童や保護者に積極的にスクールカウンセラーへの相談を勧めることができた。 ・学級づくりについて、Q-Uアンケートを2回実施し、校内研修で個別支援を必要とする児童に対する手立てを講じることができた。	・配慮が必要な児童に関しては、今年度引き続き、スクールカウンセラーなどと連携し、支援の方法を協議していく。 ・学級づくりの研修会を定期的に行う。 ・児童の内面を引き出す教育相談時間を設け、安心して学校生活が送れるようにしていく。
教育活動	●心の教育	自治能力の育成	・学級や学校の課題に気づき、みんなで話し合い改善していこうとする児童の割合を90%以上にする。	・学級会の議題を考えることで、課題に気づく視点育てる。 ・児童集会や縦割り班活動などの企画、運営をさせることで、自分たちの力でより良い学校生活にしていこうとする児童を育てる。	A	・代表委員会で決まったことを運営委員会中心に、あいさつレベル表を作成したり、あいさつ名人を放送で紹介したりと、場面に応じたあいさつが響くようになってきた。 ・どの委員会も各集会の企画、準備、運営等を担当し、よりよい学校生活にしていこうと活動することができた。	・今年度引き続き、議題箱を活用し自主的な活動ができるように仕向ける。
教育活動	●心の教育	挨拶の奨励	いつでも、どこでも、誰にでも、気持ちの良いあいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・定期的に地区ごとのあいさつ運動を実施する。 ・各学年で児童の実態にあった挨拶のめあてを考え、遂行する。	B	・全体的にあいさつができる児童の割合が増えている。元気のよいあいさつが朝の登校時にみられるようになった。一方で、まだいつでも自分からといった観点では課題も見られる。返事の声も全体的に小さい。	・運営委員会での取り組みや登校グループでの取り組みなどを実施し、意識の高まりを感じられる。今後も継続して指導していく必要がある。また、声を出す週間作りにも取り組む必要がある。
教育活動	●心の教育	自己肯定感の醸成	・自分の良さ気づき、自分を大切にしようとする児童の割合を90%以上にする。	・道徳の時間を核としてすべての教育活動において児童の心を耕していく。 ・帰りの会などで友だちの「いいこと見つけ」をし、互いに認め合う場を設定する。	B	・自分には良いところがあると回答した児童が81%であった。 ・道徳の時間や人権授業を通して、自分のよさや友だちのよさに気づき、いろいろな場面で相手を認める行為が見られるようになってきた。	・各学級で、子ども一人一人のよさに目を向けるような場面や機会を意図的に設け、自己肯定感を高める。
③ 健康・安全教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、朝食をとり自力登校できる児童の割合を90%以上にする。	・健康観察表の裏に、「朝食の喫食」や「自力登校」について確認する項目を加え、声かけにより児童に意識づけをさせる。 ・学級指導や学級活動・保健・家庭科等の授業の中で日々指導と声かけをしていく。 ・「保健だより」「食育だより」等を発行し、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて家庭に啓発する。	A	・3日間のアンケートにより、「朝食を3日間全く食べない」児童は1人もなく、朝食喫食率は全体でも99%と高い結果が得られた。内容的には、学年が上がるにつれて「主食」「副食」を合わせて取る児童が増えており、指導の成果があらわれている。 ・「自力登校」は92%の児童ができており、十分に達成できている。	・今後も栄養バランスの重要性等も含めて「食育指導」を継続していく。 ・自力登校ができていない児童は限られており、家庭と連携して個別に励ましの声をかけていきたい。
④ 学校運営協議会制度を推進した学校づくり							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的改善策・向上策
学校運営	○地域・家庭との連携	地域貢献	・地域行事等への児童の参加率を85%以上にする。	・地域行事や空瓶回収等への積極的な参加を呼びかける。 ・学校運営協議会において地域との連携推進について協議していく。	A	・地域行事等への児童の参加率は94%であった。今後も積極的に参加を呼びかける。	・学校・保護者・地域の協働体制を整えていく。
学校運営	○地域・家庭との連携	情報の双方向発信	「学校や相談の様子が分かる」「学校は相談しやすい」と回答する保護者の割合を90%以上にする。	・学校だよりや学級だより、HP等を活用し学校の教育活動に関するあらゆる情報を継続的に発信していく。 ・困ったことや悩み等が相談しやすい体制を整えていく。	A	・学校や児童の様子が分かるように情報提供していると回答した保護者が98%であった。 ・学校に連絡が入った学校や児童のことについて、担任を中心に素早く対応していた。	・学校の教育活動等について継続的に時期を得た情報発信を行っていく。 ・スクールカウンセラーとの連携した相談体制を整えていく。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的改善策・向上策
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICT活用教育の推進	・ICT機器を使った授業を受けるのが楽しいと感じる児童を80%以上にする。 ・児童の情報モラルに対する意識を高める授業を年に1回以上実施する。	・電子黒板やデジタル教科書等を積極的に活用した授業づくりを工夫する。 ・ICT支援員と協力し、児童にタブレットPCを活用させながら、情報モラルの意識向上を図る。	A	・ICT機器を使った授業を受けるのが楽しいと感じる児童が97%であった。 ・情報モラルに関する授業を全クラス1回以上は行うことができた。 ・教室配置の電子黒板の不具合に対し、速やかな対応が必要である。	・ICT支援員と連携しタブレットPCを活用した学習のための研修を行っていききたい。 ・PTAと連携しながら保護者への情報モラルの啓発を図っていききたい。
4 本年度のまとめ・次年度の取組							
<p>全体的に、概ね良好な評価であった。学力向上の取組では、研究主任及びコーディネーターが中心となり、研究主題に向けた研究の推進及び全国・県学習状況調査の分析から対応策の検討、そして学校全体での共通実践に取り組んだ。今後も児童の実態把握から、学力向上につながるよう指導法の工夫・改善をしていきたい。あいさつの励行では、いつでもどこでも誰にでも自分からあいさつができる児童を育てていくために、様々な取り組みや機会を通して、継続的に指導していきたい。また、保護者の本校教育に対する関心は高く、授業参観や行事等への参加が多く、様々な意見をいただくとともに、学校への協力を惜しまない。今後、家庭・地域と連携した取り組みを図り、さらに本校教育を充実させていきたい。</p> <p>●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目</p>							